

隠岐の自然学散歩－1「隠岐諸島が世界ジオパークに認定」

隠岐諸島は、中国地方・島根半島の沖合約50kmに位置する諸島で、三つの有人島で構成される島前（トウゼン）と最大面積の島後（トウゴ）に分かれています。その隠岐諸島が2013年10月に日本で6番目の「世界ジオパーク」に認定されました。

ジオパークとは「大地の公園」のことで、地球科学的に見て貴重な自然の遺産があり、そこで自然に親しんだり、大地の事を学習したりすることができる地域で、ユネスコの関連機関が世界ジオパークとして認定します。

隠岐ジオパークは「日本海の孤島が生み出した荘厳な大地と特異な生態系、そして人の営みが織りなす景観」をテーマとしているようです。

特に構成する地質がユニークで、且つ多様性に富むことが大きな特徴となっています。



さて初回は、隠岐の島がどのような大地になっているのか、その成り立ちを時系列に沿って解説して行きましょう。隠岐ジオパークのガイドブックに依れば、以下の様に4区分されています。

ステージ①「大陸の時代」：隠岐には、日本列島がユーラシア大陸の一部だった時代（約3億年前）の地質が残されており、隠岐片麻岩という変成岩が分布しています。この岩は隠岐-飛騨帯と呼ばれる日本では最も古い地質帯に含まれ、隠岐の基盤がかつて大陸の一部だった事が解っています。

ステージ②「日本海形成の時代」：約3千万年前頃より日本列島が大陸より分離して、日本海が形成されますが、初期は淡水湖だったので淡水性の堆積岩、その後完全に分離すると海水が流入して海水性の堆積岩が形成されました。①と②の地質はいずれも島後のみに分布しています。

ステージ③「火山島の時代」：約600万年前の頃、隠岐諸島は激しい火山活動に見舞われます。アルカリ流紋岩という他ではあまり見られないマグマが噴出し、島の形を現在に近い状態にかたち造られました。島前ではカルデラが形成されましたが、やがてそれが水没して内湾になりました。

ステージ④「半島から孤島へ」：2万年前の氷河期の海面の低下によって、隠岐は島根半島と陸続きになりました。しかしその後の地球温暖化によって海面が上昇し、再び島根半島と隠岐を引き離しました。そして約1万年前、隠岐は現在のような離島となったのです。

小さな島がこれ程多様に変化するのには珍しく、この事がジオパークに認定された由縁でしょう。

今編は岩石の話だけに硬い内容に終始したのだが、とりあえず概説と言うことでご容赦願いたい。



隠岐ジオパークの地図 ※



隠岐ジオパークのシンボルマーク ※



隠岐の代表的な景観 島前・西ノ島 国賀海岸（絵師 到氏 水彩描画）

※：隠岐ジオパークのガイドブックより複写・転載